

2016年2月18日

報道関係各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

**より安全なウェブに向けた活動を加速
W3C は FIDO アライアンスの仕様を基にパスワードのログインに代わる更に堅実
で柔軟性を持つウェブ認証技術の議論を開始**

2016年2月16日アメリカ東部時間 - W3C (World Wide Web Consortium)は、全ての人が求めるさらに安全なウェブへの要望を具現化すべく、Web Authentication Working Group (以下 WG)を発足しました。本 WG では、ウェブ上でパスワードを使用したログインに代わる、より確実な方式を議論・開発します。

多くのウェブユーザにとってパスワードは煩わしく、様々なやり取り上における難点でもありました。パスワードの失念、不十分な羅列、あるいは推測が容易なパスワードを設定してしまうケースが多くあります。強固なパスワードであったとしてもデータ上でさまよってしまったたり、フィッシング攻撃の標的になったりしています。W3C のウェブ認証は、FIDO*1アライアンスの FIDO 2.0 Web API*2を基にしてパスワードに代わる強固な暗号方式を提案します。

ウェブの発明者であり W3C ディレクターであるティム・バーナーズ＝リー卿は、「強固な認証方式が簡単に使用されるようになれば、ウェブは個人や商用に日常的に使用されるでしょう。日を追って増加する外部からの攻撃に対し、W3C は新しく、また効率に最も優れた手法を標準化しなければなりません。」と語ります。

※1 生体認証などを利用した新しいオンライン認証技術の標準化を推進する団体

※2 アプリケーションプログラミングインターフェイス、プログラミングの規約のこと

1. ウェブ認証は現在の W3C ウェブセキュリティ活動を万全にします

W3C CEO のジェフリー・ジャフェ博士は下記のように述べます。「本ウェブ認証の活動は、現在勧告候補の段階である W3C Web Cryptography API と Web Application Security(以下 WebAppSec)の各仕様を補完します。WebCryptography API は Javascript API をブラウザ間で暗号化した方式の標準的な一式として提供します。WebAppSec では HTTPS の動作やアップデートをコンテンツセキュリティポリシー(CSP)へ更新を行い、アプリケーション作成者各自のサイト上で実行許可を持つコンテンツのポリシー設定を可能にし、不要、または悪意のあるコードのインジェクションから保護します。」

「私たちのゴールは、産業、学識経験者、他標準化組織とともに特定のウェブセキュリティへの要件をすり合わせ、オープン・ウェブ・プラットフォームをより高度な標準とすることです。私たちはこの最優先事項を見据え、目の前、そして近い将来へのウェブの安全性を可能な限り高めるために幅広い参加を呼びかけます。」

W3C Technology and Society ドメイン長のウェンディ・セルツァーは、この新しい認証技術活動がウェブプラットフォーム間のギャップを埋めることを期待していると表明しています。「パスワードを超える認証方式が存在しながらも、依然として現在は多くのウェブサイトでパスワード方式のログインが使用されています。標準化されたウェブの API は、ウェブエコシステム間で一貫した実装を実現します。これにより、USB キーやスマートフォンを活用してウェブサイトにログインするなど、より確実な方法がパスワードに代わるアプローチとなってゆくでしょう。強固な認証方式は、ユーザとの関係性を継続するための有用な方式としてどのウェブアプリケーションにも役立ってゆくのです。」

2. FIDO2.0 Web API がウェブ認証技術の議論を加速

W3C のウェブ認証技術活動は FIDO アライアンスのメンバーからのメンバーサブミッションで定義された FIDO2.0 Web API の仕様書により、その活動が活発化しました。この API は、全てのウェブブラウザと関連するウェブプラットフォームのインフラストラクチャ全体を通して、標準化を見据えた強固な承認方式を確立することを目指しています。

FIDO アライアンス エグゼクティブ・ディレクターのブレッド・マクダウェル氏は、「私たちの使命は、現在のパスワード方式に代わる強固な認証方式に相互運用性を兼ね備えた技術仕様を開発し、それをグローバルに採用することでウェブの認証方式に大きな改革をもたらすことです。W3C が FIDO 2.0 を採用し、新しく Web Authentication WG を発足させたことは、この使命を完遂させることでもあります。」と述べています。

Web Authentication WG の第一回会合はアメリカ・サンフランシスコにて 2016 年 3 月 4 日に開催されます。すべての W3C 標準化活動は WG 内で議論され、すべての W3C 会員に参加が呼びかけられています。また一般の方々が閲覧できるパブリックメーリングリストや幅広い意見をとりまとめるレポジトリも備えています。

セルツアードメイン長はこのように締めくくります。「ウェブのセキュリティをよりよくするために W3C の活動に関与している開発者やエンジニアは、何十億人もの人々が信頼するウェブを壊すことなくプロトコルをアップグレードする必要性を認識しています。私たち W3C は、より安全なウェブを構築するために関心を持つ方や組織からのご参加を歓迎します。」

3. W3C (ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム)について

W3C(ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム)は、ウェブ標準化の開発を目的とし、会員組織、フルタイムスタッフ、および公的団体が連携する国際的なコンソーシアムです。W3C は、ウェブの長期的な成長の確保を目的としたウェブ標準およびガイドラインの作成を通じ使命に尽力し、現在、[400](#) を超える組織が、本コンソーシアムの会員として参加しています。

W3C は、米国 [MIT Computer Science and Artificial Intelligence Laboratory \(MIT CSAIL : マサチューセッツ工科大学計算機科学人工知能研究所\)](#)、フランス [European Research Consortium for Informatics and Mathematics \(ERCIM : 欧州情報処理数学研究コンソーシアム\)](#)、[北京航空航天大学 \(Beihang University\)](#) および日本の [慶應義塾大学](#) により共同運営しており、オーストラリア、ベネルクス諸国、ブラジル、フィンランド、フランス、ドイツ、オーストリア、ギリシャ、ハンガリー、インド、イタリア、韓国、モロッコ、ロシア、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、英国、アイルランドの各国に W3C オフィスを設置しています。詳細は <http://www.w3.org/> をご覧ください。

〈問合せ先〉

慶應義塾大学SFC研究所W3C事務局
TEL 03-3516-2504 FAX 03-3516-0617
E-mail : keio-contact@w3.org

〈配信元〉

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室学術研究支援担当
TEL 0466-49-3436
E-mail: kri-pr@sfc.keio.ac.jp